

研究・調査報告書

報告書番号	担当
196	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol use disorders increase the risk for mechanical ventilation in medical patients. アルコール摂取障害は患者の人工呼吸器使用のリスクを増加させる	
執筆者	
de Wit M, Best AM, Gennings C, Burnham EL, Moss M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Jul;31(7):1224-30.	
キーワード	
人工呼吸器、アルコール、アルコール依存症、アルコール摂取障害、集中治療、鎮静	
要 旨	
<p>背景： 30万人もの患者が毎年、アメリカのICUにて人工呼吸器を使用されている。初診時の診断によるが人工呼吸器を付けている患者の死亡率はおおよそ50%にもなる。外傷、外科疾患では、アルコール摂取障害はありふれていて、人工呼吸器の使用期間の延長と関係している。この研究の目的はアルコール摂取障害あるいはアルコール依存症がICUに入院することが求められる疾患での人工呼吸器の使用頻度及び装着期間の延長に関係するかについて検討した。</p> <p>方法： およそ1000病院のすべての支払い入院患者のデータベースであるNationalwide Inpatient Sampleを使用して後ろ向きコホート研究を行った。2002年から2003年までの、ICU入院と関係する6つのもっとも一般的な疾患のいずれかで入院した成人患者を対象とした。一変量解析及び多変量ロジスティック解析を用いてアルコール摂取障害またはアルコール依存症が患者の人工呼吸器使用期間と独立して関連があるかについて検討を行った。</p> <p>結果： 785602名の患者が6つのうちの1つの疾患を満たした。26577人(3.4%)がアルコール摂取障害で、3967(0.5%)人がアルコール依存症であった。65071(8.3%)人が人工呼吸器を使用した(53%が96時間以内、47%が96時間以上)。診断と独立して、アルコール摂取障害は人工呼吸器使用のリスクを増加させた(13.7% vs 8.1%, odds ratio=1.48, 95%CI=1.414-1.724)。しかし、人工呼吸器の使用期間とは関連しなかった。 しかしアルコール依存症では呼吸器の使用期間の延長と関連した(96時間以上 57% vs 47%, odds ratio=1.48, 95%CI=1.266-1.724)。</p> <p>結論： ICU入院と関連する疾患の患者では、アルコール摂取障害で人工呼吸器使用のリスクを増加させ、アルコール依存症では人工呼吸器の装着期間の長期化と関連した。</p>	